

宮津・由良の隠れた魅力探す 京都府立大生が調査

京都府立大人間環境学部の学生らが4日、山や海など自然豊かな宮津市由良で、フィールド調査を行った。地元で眠る魅力的な「価値」を生かした地域づくりを提案するため、今後も継続して研究、地域活性化につなげる。



地元の人たちとともに地域の隠れた魅力を探す
京都府立大の学生ら（宮津市由良）

調査したのは同学部の三橋俊雄教授と環境デザイン学科の3年生ら18人。「由良地域の歴史的・自然的資源を生かしたエコミュージアムの提案」がテーマ。

前日から由良を訪れていた学生らはこの日、「丹後富士」とも呼ばれる由良ヶ岳（標高約640メートル）に登頂。その後4班に分かれ、伝統的な町並みや、かつて行われていた汐汲浜の塩づくりなどについて調べた。

荒れた水田を再生し環境教育のためのエコパーク構想に取り組む班のメンバーは、地元住民の案内を受けながら休耕田や民家を回った。

冷たく透明な水がわき出る湿地や、ひっそりとスイレンの花が咲く場所に案内されると、「これらを地域の財産と考え、体験学習などに生かせるよう考えていきたい」などと話し合っていた。今回の調査は7日まで行う予定。

（2006年8月5日、京都新聞）